



# よこと館だより



Est. 1912

発行：至誠学舎立川 編集：法人事務局

## 理事長閑話 埋め草 ⑥

～ナッジ (Nudge) 理論 コロナ対応に引き寄せて～

カミュの小説「ペスト」は、当時のフランスの植民地、アルジェリアの城壁に囲まれた港湾都市「オラン」で発生した黒死病を描く。都市封鎖（ロックダウン）された市内での個人の行動を通じた不条理に迫る。状況は新型コロナの中国武漢やフランス、スペインと重なる。全体主義国家中国だけではなく、近代化の中で個人の主体性を基盤の文化特性を育んだヨーロッパの市民が、自由より強権により全体の安全公益を優先した処置を受け入れられた事は私にとっては大きな驚きだった。

今回の新型コロナウイルス発生に対して状況の経過を見ながら当面の対応を続けてきた日本だった。その後イタリアから始まったヨーロッパでの爆発的な疫病蔓延となり、WHO のパンデミック宣言、そしてロックダウンと続いた。現在中国、韓国では発生ピークは過ぎたように見え、西欧の国々も徐々に公による社会統制を緩めつつある。日本では緊急事態宣言はようやく解除されたが、ヨーロッパのロックダウンをした国々と事情と状況は大きく異なる。

それは人口に対しての死者数が全く違う事とその対応である。人口を考慮しないで死者数で見るとアメリカ/103,768 人、イタリア/33,340 人、イギリス/38,376 人、フランス/28,771 人、ドイツ/8,530 人等々である。さて、日本といえば死者数 891 人（5 月 31 日現在/諸国共）なのである。対応が遅く緩慢であると批判された日本における死者数の少なさはやはり特筆される。その理由については今後様々な分析があると思うが、間違いないのは日本の公衆衛生と医療のレベル、そして市民の伝統的な生活対応能力が発揮されたのだと思う。

強権を持ってしても多くの死者を発生させた国と、「自粛」という市民へ要請によって社会の危機に対応した日本。実はこの「自粛要請」という言説が日本の文化特性を語っているのではなかろうか。監視とか罰則などの強制力無しに、よりマイルドな手法での危機対応である。これは行動経済学という「ナッジ理論」と説明ができる。強制ではなく、さりとして自主性だけに任せてしまうのではない。さりげなく働きかけることで気づいてもらい自分の意志で行動するよう導く手法である。よく公衆トイレに「きれいに使っていただいて有難う」とか「あなたの軽率な振る舞いが大切な人の命をおびやかしかねません」といった言葉はまさにこの理論に裏付けられている。このナッジ理論、理屈ではなく人との関係性を重視する日本人になじみの行動特性、それこそ世界に誇る行動文化ではないかと思う。

実はヨーロッパの中でスウェーデンは強制より個人の自主性により、責任ある行動を求め集団免疫を目指している。この困らしい成熟した個人主義の信念にも見え、大きな社会実験のようにも思える。その結果に興味を惹かれるが、伝統の力を信じるという背景はやはりこのナッジ理論からも説明ができるだろう。

理事長 橋本正明

## 事業本部長メッセージ

園児も職員も待ちに待った日野橋の開通です。工事直後から毎日のように様子が気になっていました。開通前夜、通行止めになっていた橋に灯りがともり、ようやく復旧の実感。工事を管理していた人に思わず労いの言葉。大正 15 年架けられた当時の写真から皆の念願が強かったことがわかります。至誠保育 70 年の歴史の中でも昭和 27 年日野から橋を渡り登園する子ども達の写真があり、至誠第二保育園開設のきっかけとなっています。コロナで毎日落ち着かない中、日野橋再開は明るい気持ちになります。続いて新しい橋の架け替え工事も始まるようです。新たな多摩川の思い出、皆の夢を乗せた日野橋がどんな橋になるのか楽しみにしています。



再開した様子を眺める園児達

話は変わり、いよいよ梅丘至誠保育園の地鎮祭も執り行われ、至誠障害福祉総合センター工事も始まります。順調に進むことを願います。



橋付近、ふと見つけた当時の写真



昭和 27 年日野橋を渡る園児の様子

保育事業本部長 稲永 勝行

## 事業本部情報

### 😊 児童事業本部 😊

2020年の春は、これまでと違う景色の毎日でした。その中でもいつもの通り花は咲き、生い茂る若葉が美しい季節となりました。至誠学園にはたくさんの樹木があります。梅や桜に今年は蜜柑と柚子もたくさんの花をつけました。そしてあまり花を咲かすことがなかった薔薇が咲きました。この薔薇は高橋田鶴子先生が横浜で買い求め、園庭に植えた大輪のピンクの薔薇です。私が至誠学園で仕事を始めた頃は、誕生日会や大事なお客様をお迎えした時など全員でお食事をする機会がたくさんありました。その時は高橋田鶴子先生や、元園長の高橋久美子先生にお教え頂き、「はらん」や、「山椒の木」の木の芽を採ってきてお料理に添えました。心のこもったお料理はもちろんのこと、お料理に添えるものにまで気を配り、そういうものが庭にあることは驚きでありました。「明るく直く健やか」な心持ちで、身近なものに改めて目を向けながらステイホームを続けていきたいと思えます。



(ワークセンターまことくらぶ 施設長 阿久津嘉代子)

### 🌸 保育事業本部 🌸

新型コロナウイルスの感染拡大防止を踏まえて、乳幼児のお子様をお預かりする保育園として、行政からの通達文をどのように解釈し実施していくか…。感染拡大を最小限にするための「3密・人との接触8割減」の実現に向けた努力と同時に、保育を必要とするご家庭に対して安全な保育を継続するにはどうすれば良いか。子ども達やそのご家族、更には職員を守る為に何が最善なのか。本当に悩ましい日々ではありました。職員が一つとなって知恵を出し合い、前を向いて一日一日を乗り越えてきました。

この3か月間、保育環境と生活の流れ・行事の変更（卒園式・入園式・お誕生日会…）と、検討してきました。緊急事態宣言が解かれた次の段階に向けての対応策も検討しています。プールは行うことができるか、各行事の在り方は…。保護者の理解をいただきつつ、お子様の大切な0～6歳という人格形成の土台を築く大切なこの時に、制限の中にも最善の環境を整えていくことに職員皆で心合わせていきます。

(小百合保育園 園長 玉城 新)

### 🦋 高齢事業本部至誠ホーム 🦋

至誠ホームの「新しい風・フォーリンスタッフ（外国人介護士）」は現在34名がおり、職員の中での割合は5%弱にもなります。技能実習生は17名で日本語と介護の学習は彼らの本国と管理団体で学んでおります。出身はスリランカが5名とインドネシアが12名です。至誠ホームに来て、そのまま現場で仕事に就きました。一方、留学生は17名ですが、日本語学校での学習を終え、いまは介護の専門学校に通い、今後介護福祉士を目指します。出身はベトナムが14名、カンボジアが1名、ネパールが2名。学校に通いながら、その他の時間は現場で仕事をしています。彼らは今コロナウイルス感染防止により、学校で通常の授業が出来ずウェブで指導を受けています。ホーム6階の職員寮の廊下に机を出して先生と交信し勉強中です。彼らの配属先は、至誠特別養護老人ホーム、至誠ホームミンナ、至誠ホームキートス、至誠ホームアウリンコ、至誠ホームオンニです。

先日フォーリンスタッフを全員集めて「非常事態宣言」の意味や行動面の注意点を繰り返し伝えました。2回も実施しました。日本に憧れてやって来て、渋谷や浅草、秋葉原などに行きたい若者たちです。「気持ち分かるが駄目よ！」と伝えました。昔のテレビドラマ「金八先生」になった気分です。

(高齢事業本部 至誠ホーム 統括事務局長 金井 裕一)

## 本部事務局だより (心に響くリーダーの言葉)

日本の官僚組織の特徴は「無謬性(誤りはない)」を持っていることである。従って官僚は、間違いを認めない、謝らない、説明しない。また、失敗を恐れるので、判断しない、決断しない、柔軟性は無い、前例主義である。しかし、それを超えて判断し実行するのが政治家の務めである。

各国の首脳や首長(知事等)の中には、ドイツやニュージーランドの首相のように自分の言葉で語りかけ共感を得ている人もいれば、そうでない人もいる。日本では、官僚と見紛う大臣や、選挙が近いのか、やたら自分の名前を連呼しながら国民に指示ばかりしている者もいる。自粛やお願いなどの情報発信に当たって重要なのは、最初に、ねぎらい、感謝、共感の言葉を口にすることである。つまり「ありがとう、〇〇大変だったね、感謝しているよ」と言うことである。そして、次にやってほしい事を具体的に示し、自分も断固として立ち向かう(責任は自分が取る)姿勢を示すことである。順番を間違えては心に響かないし、使命感ばかりを訴えると反感を買うのである。「ねぎらい、感謝、共感の言葉」を最初に口にするのは、組織においても家庭においてもコミュニケーションの基本ポイントである。

(法人事務局長 野島 忠幸)

(編集後記)緊急事態宣言が解除された時にはもうすでに梅雨時期ですね。季節の変わり目、体調にはくれぐれもご自愛ください。(小)